

講義名	憲法		
科目区分	教養科目		
担当教員	柴田 克史		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>小学校、中学校、そして高校において、憲法の重要性(立憲主義)や日本国憲法の三大原理(国民主権、平和主義、基本的人権の尊重)について学ぶが、「これらが何を意味し、どの条文でどのような内容として明確に規定されているのか」について深く学ぶことは非常にまれである。本講義は、具体的な事例である最高裁判所の判例を中心に、憲法の意味と内容を理解することを目的としている。</p>

到達目標
<p>(1) 学生が以下の2点を理解し、説明できるようになることが到達目標である。 1. 人権とは何か、また日本国憲法はどのような人権を規定しているのか 2. 日本の統治の原理と仕組み</p>

提出課題
特になし

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック
<p>学生からの質問については、次回の講義でフィードバックする。</p>

評価の基準
試験100%

履修にあたっての注意・助言他
<p>【履修上の注意】 1. 講義中の食事・私語など受講態度がひどい場合は厳しく対応する(受講態度が著しくひどいと判断される場合は、学生証を確認の上、途中退出を命じることもある) 2. スマートフォンは、音をならさないようにして、机の上に置いたり、ポケットに入れるのではなく、カバンの中にしなうこと 3. 大学生として良識を持って受講すること</p> <p>【コメント】 18歳に選挙年齢が引き下げられ、高校における政治教育(「主権者教育」)が必要とされている。「日本」の政治システムを取り扱う本講義は、それに直結するものであるため、教員を志望する学生は、自身の専攻や興味関心にかかわらず、積極的に取り組むことを勧める。</p>

教科書
<p>憲法への招待(新版)、渋谷秀樹、岩波書店、924、978-4004314707</p>

プリント資料及び参考文献
<p>【講義資料】 穴埋め式の講義資料を配布。</p> <p>【参考文献】 岡田信弘『事例から学ぶ日本国憲法』(放送大学教育振興会、2013年) 伊藤正己『憲法入門(第4版補訂版)』(有斐閣、2006年)</p>

授業計画
<p>第1回 オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、試験・単位) 第2回 人権とは何か(1)——「人権享有主体性」(第2章6) 第3回 人権とは何か?——「私的自治力」論(第2章7) 第4回 人権とは何か(2)——「幸福追求権」(第2章8) 第5回 人権とは何か(3)——「法の下での平等」(第3章9) 第6回 どのような人権が規定されているか(1)——「信教の自由」(第3章11) 第7回 どのような人権が規定されているか(2)——「表現の自由」(第3章12) 第8回 どのような人権が規定されているか(3)——「財産権」と「生存権」(第3章14、15) 第9回 どのような人権が規定されているか(4)——「選挙権」(第3章16) 第10回 政治システムの原理(1)——法の支配(第1章3) 第11回 政治システムの原理(2)——権力分立(第4章17) 第12回 政治システムの原理(3)——民主制(第4章18) 第13回 政治システムの内容——議会=立法、政府=行政、裁判所=司法(第5章21、22、23) 第14回 憲法とは何か(1)——「憲法制定」と「憲法改正」(第1章4) 第15回 憲法とは何か(2)——「近代憲法」とは(第1章1、2) 第16回 定期試験</p> <p>*カッコ内は教科書の該当箇所 *講義の進行によっては変更することもある</p>

授業形態(アクティブ・ラーニング)
<p>ア：PBL(課題解決型学習) イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) ウ：ディスカッション、ディベート エ：グループワーク オ：プレゼンテーション カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>授業資料(穴埋め式)を事前に配布するので、教科書を参考に穴埋めをしてください。 個人差はあるが、予習にはおよそ2時間程度かかる。</p> <p>大半の受講者にとって法律の学習はなじみがなく、難解に感じられると思うので、授業資料の各章の最後にある「学習の目標」を参照に、なるべくこまめに復習をすること。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考